

## 「世界の諸地域 アジア州」 ～自立の道を歩む東南アジア 授業実践例～

札幌市公立学校教諭

### 1 はじめに

この春、北海道新幹線が開業し、北海道も新たな時代を迎えた。新幹線は、世界の高速鉄道の中でも最先端の水準にあるともいわれ、近年、ハード面だけでなくソフト面も海外へ輸出する動きがある。ジャカルタとバンドンを結ぶ高速鉄道は中国側に軍配が上がったが、インドでは昨年12月、西部ムンバイーアーメダーバード間505kmで日本の新幹線方式の採用が決まった。新興国では鉄道インフラの建設があいつぎ、タイでは新幹線導入を前提とした調査が、マレーシアーシンガポール間の高速鉄道計画では、日本を含む各国による国際入札になる可能性が高いそうだ。今後ますます関係が強まることが予想される東南アジアは、われわれの生活のさまざまな場面に授業で取り上げることができる教材がたくさんある。今回は、そんな東南アジアにおける指導展開例を紹介させていただく。

### 2 本時の展開

#### (1) 導入

『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）では、中国、東南アジア、南アジア、西アジア・中央アジアの順に配列されているが、それぞれの地域を関連づけながら、単元を展開していく必要がある。そこで、前時の復習を

兼ね「工業化が進んだ中国では、いろいろなものがつくられるようになった。身のまわりの、『メイド・イン・チャイナ』を探してみよう」と発問し授業を始めることにした。実際に筆箱、かばん、ジャージ、上靴などの生産国を調べると、中国製品以外に東南アジアの製品も多いことに気づく。身のまわりに東南アジア製品が少ないときは、テレビやDVDプレイヤーなどの家電製品を例に、身のまわりには東南アジア製品も多いことにふれ、『中学校社会科地図』（以下、地図帳）やデジタル地図帳を使い生産国の位置を確認する。多少時間がかかるが、国名と位置は地図帳で確認する習慣を身につけさせたい。

#### (2) 展開

##### ① 中心発問の提示

東南アジアの工業化について学習するうえで最適な資料は、教科書p.43の「⑥おもな国の輸出品の変化」のグラフである(図1)。教科書には、マレーシア、タイ、インドネシアの3か国が掲載されているが、今回はマレーシアのグラフを読み取ることに重点をおいた。

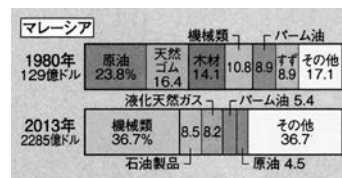


図1 『社会科 中学生の地理』 p.43 「⑥おもな国の輸出品の変化」

まず、2013年のグラフのみを提示し気がついたことを発表させる。「機械類が1位だ」「ガスと石油が多い」といった1年生らしい反応が教室に響く。また、グラフを読み取る基本

的な姿勢を身につける必要があるため、下記の3つを必ず全員で音読するようにしている。

- ・グラフのタイトル「おもな国の輸出品」
- ・グラフの年次「2013年」
- ・単位「億ドル」

この点については、本誌の2014年度3学期号『地理的技能の基礎・基本③』にて、赤坂寅夫氏が述べられている。2013年のグラフを読み取ったうえで、1980年のグラフを提示し、2つのグラフを比較し気がついたこと発表させる。グラフを比較し分析する作業は、難易度が上がるためグループを活用することにした。「全体の輸出額が増えた」「機械類の輸出額が増えた」等の声はすぐに上がってくるが、ここで割合を示すグラフの難しさ（正しいグラフの読み取り方）を教えなければならない。単に割合を比較するだけでなく、実際の輸出額を算出し示すことが大切である。とくに機械類の輸出額は、1980年に約14億ドルなのに対し2013年には約839億ドルに増加している。具体的に数字を示すだけで、「こんなに増加（約60倍）したのはなぜだろう？」という疑問が生徒から自然に出てくる。「機械類の輸出が増えたのは、機械類の生産が増えたんだ」「なぜ、こんなに増えたんだ」という声を受け、

マレーシアで急速に工業化が進んだのはなぜだろう。

という中心課題を提示する。そして、この変化の背景や要因について、自分たちで追究することが本時の主たる学習活動となることを伝える。

## ②課題の追究

### ～グループでの話し合い～

この活動においても、グループを活用し話し合わせることで、より多くの意見がでてくる。このことについては、本誌の2013年度2学期号『「世界の諸地域」指導の秘訣』の中で

赤坂氏が「個人→グループ→学級と話し合いの場を広げることによって、自分とは異なる新たな意見を知って見方・考え方を広め深め、さらに自分の考えを再構築することができる」と述べられている。私は、グループで話し合いを行わせる際に、発表内容を簡単に共有できる発表ボードを活用している。また、グループでの話し合いをスムーズに行うために、

- ・4人1グループとする。
- ・1人は司会，1人は記録者（発表ボードに記入する），1人は発表，1人は道具係（ボード，ペン等の準備片づけ）
- ・発表時には、「教科書の○○と資料集の○○から考えて…」と必ず根拠を示す

という、3つのルールをつくっている。生徒たちは、教科書の本文，資料「⑤1980年と2012年に東南アジアに進出した日本企業の数」や『アドバンス 中学地理資料』（以下，資料集）を活用し，工業化が進んだ背景や要因について，自分たちの考えを発表ボードにまとめていく（図2）。

### ～意見の交流～

グループでの話し合いのあと各グループの発表となる。各グループの発表は、「○班と同じように…」「□班とは違う考えですが…」など，生徒が相互に評価し発表するように指導している。各グループの発表が終わると，生徒が発表した語句を活用しながら，教師が評価・修正・補足をし，まとめを行う。発表させっぱなしで終わらせることなく，間違った発表内容はきちんと修正し，必要に応じて補足する必要がある。これは，言語活動が重

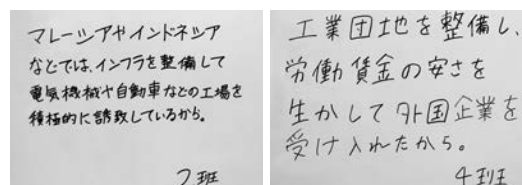


図2 生徒が記入した発表ボードの一例

視されている授業において、最も大切な教師のスキルだと考えている。

### ～視点を広げる～

発表の後「皆さんが発表してくれたことはマレーシアだけに起こっているのだろうか」と発問する。すぐに、「タイ、インドネシア、フィリピン」という声が返ってくる。(おもな国の輸出品の変化のグラフは、資料集や地図帳にも掲載されている)工業化という点では、マレーシアよりもタイのほうが数字の変化が顕著である。「1980年のタイの機械類の輸出額はどれくらいだと思う?」と発問し、「1980年は約3.8億ドル、2013年は約670億ドル。なんと176倍」とタイのデータを示すだけで、マレーシアでの学習が東南アジアの他の国でもあてはまることが予想できる。このような学習をふまえて教科書を読むことで、東南アジア全体で工業化が進んでいることをきちんと理解できるようにする。そして、説明しよう「東南アジアで急速に工業化が進んだ理由」をノートやワークシートに記入させ、数人に発表させる。その際、資料集p.55の「東南アジアに進出する日本企業」など日本との結びつきを実感できるコラムを紹介するのも手である。

### ～視点を広げる～

東南アジア全体で工業化が進んでいることをおさえたうえで、マレーシアの天然ゴムや油やしのプランテーション、タイやベトナムの米の輸出など、農業についての学習へと発展させる。教科書の確認しよう「東南アジアで輸出用につくられている農作物を、本文から書き出してみましよう。」を活用すると良い。今回は時間に余裕がなかったが、パーム油で授業を展開することもできる。パーム油はわれわれの日常生活で欠かせない、せっけんやシャンプー、食用油の原料であり、生徒にとっては最も身近で関心が高まる教材かもしれない

い。その生産量の変化を授業の導入とし、熱帯林の減少、土地利用の変化、産業の変化と学習を展開させることも可能である。教材が何であっても、グラフの読み取りやグループ活動を通じ課題を追究していくなかで、その変化や現象の背景、要因についてせまることができる授業を行いたいとつねに考えている。

### (3) まとめ

学習のまとめの段階として、ASEANにふれる。ASEANの発足の背景など詳細に学習することは時間的に困難であるが、地図帳のp.158を活用し、マレーシア、タイ、インドネシアなどASEANを代表するおもな輸出品は必ずチェックさせたい(図3)。さらに、おも

正式国名	おもな輸出品	輸出品総額(%) 2011年	エネルギー自給率(%) 2012年	1人あたりの国民総所得 2013年	おもな宗教	おもな言語
インドネシア共和国	石油、機械類、パーム油	87	206	3,580	イスラム教	インドネシア語
カンボジア王国	衣類、切手類、自動車	103	72	950	仏教、イスラム教	カンボジア語
シンガポール共和国	機械類、石油製品、有機化合物	—	2	54,040	仏教、イスラム教	英語、中国語
タイ王国	機械類、自動車、石油製品	148	60	5,370	仏教	タイ語
日本国	自動車類、機械類、鉄鋼	78	—	46,140	無宗教	日本語
フィリピン共和国	機械類、電気機器、船舶	83	57	3,270	キリスト教	フィリピン語、英語
ブルネイダルサラーム国	液化天然ガス、原油、機械類	2	480	31,590	イスラム教	マレー語、英語
ベトナム社会主義共和国	機械類、衣類、原油	117	107	1,730	仏教、キリスト教	ベトナム語
マレーシア	機械類、石油製品、液化天然ガス	25	109	10,400	イスラム教、仏教	マレー語
ミャンマー連邦共和国	天然ガス、寶石、半貴石、まがね	102	147	—	仏教、キリスト教	ミャンマー語
ラオス人民民主共和国	銅、木材、衣類、金	106	—	1,460	仏教	ラオス語

図3 『中学校社会科地図』 p.158 「1世界の国別統計」

な宗教と言語に注目させ、東南アジアにはさまざまな民族が暮らしていることを説明する。

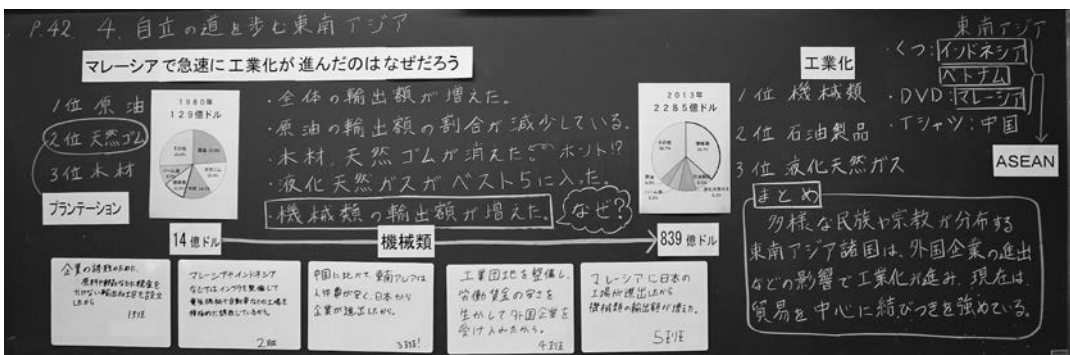
そして、新聞記事などを引用しながら、「2015年末にASEAN共同体が結成され、人とももの動きが今後さらに活発になるようだ。域内の道路や鉄道などの整備も急ピッチで進み、経済連携協定(EPA)を結ぶ日本との結びつきはますます強まっていくだろう。」と補足することで、教科書の「ASEANは日本や中国、韓国との関係を深め」「経済発展をめざして」いる姿を具体的にイメージしながら理解することができるようになる。

## 3 おわりに

この授業は、昨年行った授業をベースに再

指導案と板書例

展開時間	おもな学習内容と子どもの活動	教師のはたらきかけ
導入 10分	◎前時までの復習をする。 ①身のまわりにある工業製品の生産国を調べ発表する。 ・ベンケースやジャージなどは中国で生産している。 ・靴やかばんなどは、ベトナムやタイで生産している。 →東南アジア諸国で生産された製品も多い。	◎中国の工業について確認する。 ◎生産国を地図帳で確認しながら、東南アジアの範囲を確認する。
展開 30分	<p style="text-align: center;"><b>東南アジアの産業の変化について、マレーシアを例にみてみよう。</b></p> ②マレーシアの輸出品の変化を、グラフから読み取り発表する。 ・原油の輸出額が減った。←本当に減ったのだろうか？ ・機械類の輸出額が増えた。 →農産物や鉱産物から機械類に変わってきている。	◎グラフの読み取り方を確認する。 ・何を表したグラフなのか（タイトル） ・単位は何か ・データは何年のものか ◎機械類の輸出額を実数で提示する。
まとめ 10分	<p style="text-align: center;"><b>マレーシアで急速に工業化が進んだのはなぜだろう。</b></p> ③機械類の輸出額が増加した背景や原因を、教科書、資料集、地図帳を活用し考える。 （個人→班） ・日本の企業が工場を建設し、電気機械などの製造がさかんになったから。 ・中国に比べて人件費が安く、企業の誘致のために、原料や部品などに税金をかけない輸出加工区を設立したから。 ・工業団地を整備し、労働賃金の安さを生かして外国企業を受け入れたから。	◎個人で考えさせる。 ◎班で交流し、発表用紙にまとめさせる。 ◎評価・修正・補足を行う。 ◎おもな宗教と言語にも注目させ、東南アジアにはさまざまな民族が暮らしていることを説明する。 ◎生徒の発表ボードの語句を引用し、本時のまとめを行う。



構成したものである。提示する資料や活動が多く生徒に負担がかかってしまったが、ボリュームが多いことを承知であえて執筆させていただいた。一部分でもお役に立てばと思っている。これ以外にも、アジア州に関する教材はたくさんあり、いろいろな角度から

授業展開が可能である。私たちの住むアジア州は、思い切って世界地理の最後に学習したほうが、生徒にとって興味深い単位になるのではないかとすら考えてしまう。今後も研修と実践を積み重ね、生徒がいきいきと活動できる授業をめざしていきたいと考えている。